

 平城宮跡資料館  
冬期企画展のごあんない  
「測る、知る、伝える－平城京と文化財－」



国土地理院 近畿地方測量部との合同主催でお送りする今回の企画展では、測量と地理の視点から平城京と文化財を読み解きます。

奈良時代の人が使ったものさしや、江戸時代に平城京を研究した北浦定政の測量史料などの貴重な実物や、国土地理院の平城京空中写真などを公開します。また大和の古地図を取り上げ、奈良時代から現代まで続く土地の歴史について触れます。そのほか、測量技術を用いた文化財研究の最前線を紹介するコーナーや、測量機器に触れる体験コーナーもあります。

12月19日（日）には、古代と近代・現代の測量について解説する記念講演会や、同時開催イベントとして社団法人奈良県測量設計業協会による平城宮跡での測量体験も実施しました。

（企画調整部 渡邊 淳子）

会期：2010年11月26日（金）～2011年1月16日（日）

開館時間：9：00～16：30（入館は16：00まで）

休館日：月曜・年末年始（月曜が祝日の場合は火曜休館）

お問い合わせ：TEL 0742-30-6752（連携推進課）

URL：<http://www.nabunken.go.jp>

 第2回 特別講演会（東京会場）開催

9月25日（土）、東京の有楽町朝日ホールで特別講演会を開催しました。平城遷都1300年祭を記念した東京での講演会は今年の5月に続き2回目です。今回は「古代はいま－奈文研最前線－」をテーマに、奈良文化財研究所の各部局長5名とゲスト講演者1名がそれぞれの切り口で研究を紹介するという構成でした。

午前10時20分に開演、会場は500名余りの来場者で埋まりました。

所長（田辺 征夫）の挨拶の後、都城発掘調査部長（深澤 芳樹）が「くれないはうつろうものぞ」と題し、古代の製法で染色した紅色の布を壇上で広げながら講演し、次に企画調整部長（難波 洋三）は銅鐸のレプリカを手に「銅鐸－花器として生きる」を、埋蔵文化財センター長（松井 章）は「古代人の肉食の忌避という虚構」を、巧みな話術で講演しました。

午後には文化遺産部長（小野 健吉）が「日本庭園のはじまり」、副所長（井上 和人）が「古代遷都の真実－飛鳥宮・藤原京・平城京の謎を解き明かす」と題して講演。そして最後に特別講演として、かつて奈文研で勤務し、現在は東京大学教授の佐藤信氏に「古代史研究と奈良文化財研究所」という演題で、奈文研が果たしてきた役割や今後期待される在り方などについて熱く語っていただきました。

長時間にわたる講演会であったにもかかわらず、客席は午前・午後を通してほぼ満席で、東京の人々の奈良に対する関心の高さを確認することができました。

この好機を逃さず、今後も県外での広報企画を続けていきたいと思います。

（研究支援推進部 永井 あつ子）



紅色の布を手に講演する深澤部長